

○令和4年度 教育事業 「指導者のための自然体験普及講座」(R5.2.23(木)～24(金))



◆目的

野外での活動や講義等を通して、自然体験活動を指導する上で必要な基礎的な知識や技術を学ぶとともに、自然体験の重要性を普及啓発できる指導者を育成する。

◆参加実績 (定員 20名)

参加 24名

- ・市町村教育委員会 6名
 - ・道内青少年教育施設職員 4名
 - ・道内大学生 3名
 - ・ジオパーク関係団体 2名
 - ・民間団体職員 2名
 - ・市町村職員 1名
 - ・市町村関係団体職員 1名
 - ・幼稚園教諭 1名
 - ・青年団体所属 1名
 - ・個人 3名
- (男性 12名・女性 12名)

◆プログラム

- ①【講義・演習①】体験活動における導入について学ぶ
 講師：札幌大谷大学講師 太田 稔 氏
 参加者はアイスブレイクの意義について理解するために、実際にアイスブレイクを体験した。その後、対象者の特性について講義を受けた。
- ②【講義・演習②】街でもできる自然体験を学ぶ
 講師：札幌大谷大学講師 太田 稔 氏
 場所を選ばずにできる冬の自然体験として、雪中鬼ごっこや雪積み競争、そり競争などを体験した。参加者は特別な道具や自然環境がなくても遊べるものを全力で楽しんで、自然体験の良さを感じた。その後、グループワークを通して冬と夏の活動の違いなどを意見交換し、街で行う際に気を付けるポイントを学んだ。
- ③【演習③】焚き火の技術を学ぶ
 講師：国立大雪青少年交流の家職員
 刃物や火の取り扱いを学ぶため、焚き火用の薪割りや焚き付け用のフェザースティックを作成した。その後、1人ひとつのかまどを使い、自分の手で火をおこし、火を扱う活動の指導方法を学んだ。グループごとに焚き火を囲み、子どもに指導する際に必要なことなどの意見交換を行った。



④【演習④】伝える技術を学ぶ

講師：美瑛インタープリテーションマスターガイド
小倉 博昭 氏

指導者として、参加者に伝えるための技術を学ぶため、ガイド経験豊富な講師を招き、冬の白金の森をスノーシューで散策した。生き物や植物の話聞きながら、伝える際の注意点を学んだ。散策後、グループに分かれ、伝えるために必要なことやそのコツを話し合った。



⑤【オンデマンド動画の視聴・課題の提出、ガイダンスの受講、認定試験の受験】

NEALリーダー資格取得希望者は、事前に必要なコマの動画を視聴及び課題に取り組んだ。また、24日午後にガイダンスと認定試験を受けた。

◆事業運営・企画のポイント

- 参加者がそれぞれの地域に戻っても、自然体験活動の指導ができるよう、内容を工夫した。また、自然体験の重要性を広められるよう、活動の有効性が伝わるよう資料を工夫した。
- 既に所属団体に活動している参加者が多かったため、お互いの仕事について話す時間や情報交換をする時間を設け、互いの交流ができるようにした。

◆参加者の声

- 横のつながりもできて北海道全体で自然体験の大切さ、イベントを盛り上げていけるといいと感じました。
- たくさん活動ができ、新しい学びが多く得られた。
- 同じ目標や目的を持つ人たちだったので話し合いも大変ためになり、自分の仕事に生かせると思った。

◆事業の成果

アンケート結果から、今回の事業で学びを得たと感じた参加者は多く見られた。